

医学研究者 2 人に助成

徳島新聞社会文化事業団

徳島県内の医学研究者を支援する徳島新聞医学研究助成金(徳島新聞社会文化事業団主管)の第10回贈呈式が26日、徳島大学蔵本キャンパスであり、徳島大学医学部の研究者2人にそれぞれ50万

円と記念盾が贈られた。助成を受けたのは消化器・移植外科の宇都宮准教授(49)と循環器内科の添木武講師(44)。贈呈式で事業団の藤井潤業務執行理事から助成金が手渡された。

宇都宮准教授は「受賞を励みに研究を進め、徳島から世界に向けて情報発信したい」、添木講師は「成果を臨床に還元できるまで精進する」と喜びを語った。5人の選考委員を代表し、玉置俊寛医学部長(69)は「若い医学研究者の手本となるほしい」と述べた。

宇都宮准教授の研究は、肝がん未発症の肝臓組織を遺伝子レベルで分析し、がんの発症リスクを予測、がん予防や治療につなげる。添木講師は「ペプチドホルモン「グレリン」の自律神経調節や抗炎症作用を、難治性心疾患の治療薬に応用する研究に取り組んでいる。助成金は2002年に医学を研究する徳島大学の学生、教員を対象に設立。本年は9件の応募があった。



藤井業務執行理事から助成金を受け取る宇都宮准教授④と添木講師⑤—徳島大学蔵本キャンパス

(興村靖之)